

# 生涯学習社会を見渡す鳥瞰図

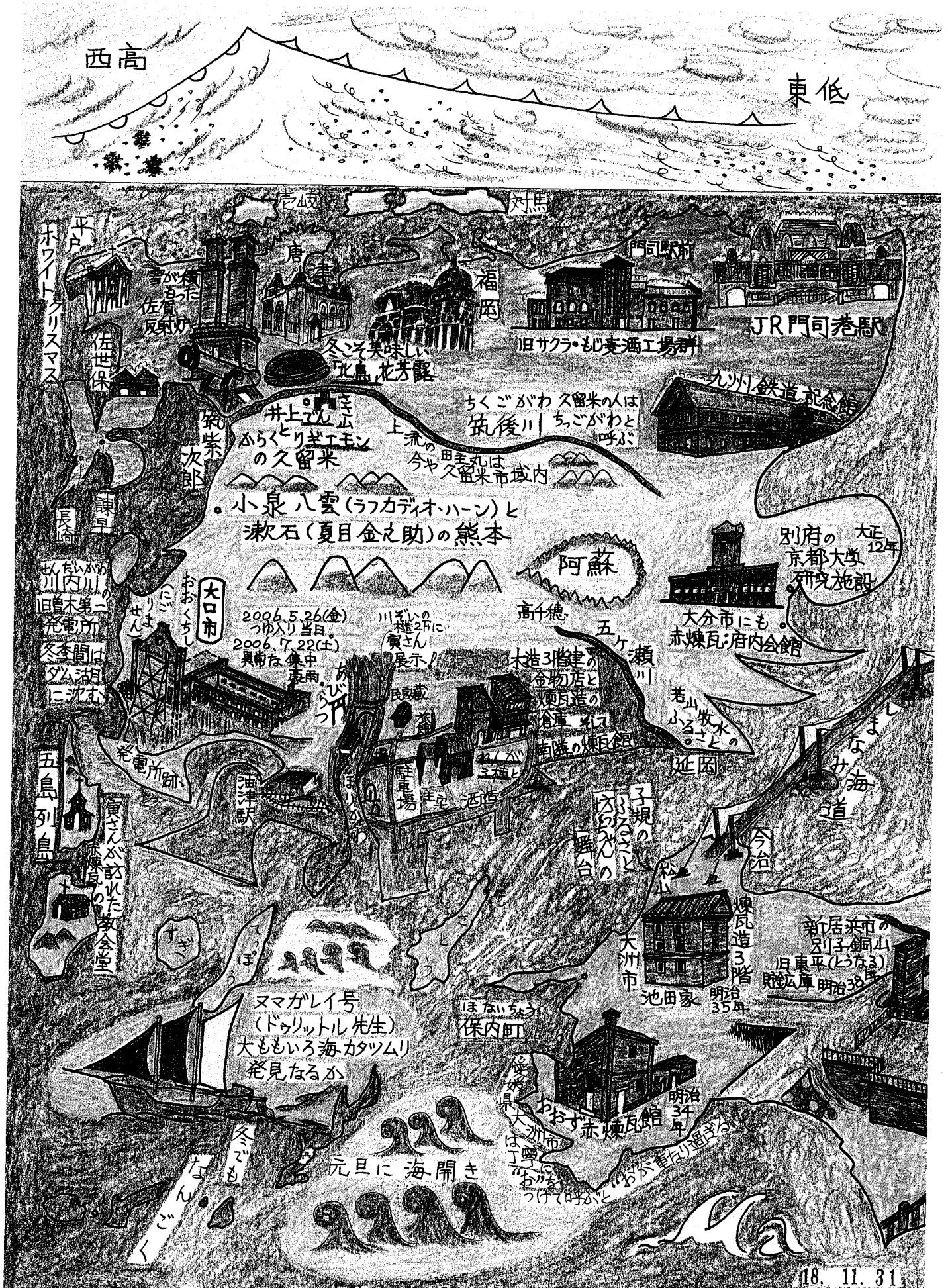
The Bird's-Eye Views of Lifelong Learning

水 野 信 太 郎

Shintaro MIZUNO



作品一 1 旧佐賀銀行唐津支店全景



作品一 九州以南および四国西半部を見渡す鳥瞰図・冬季

(横297mm×縦421mm)





作品一3 中国と四国東部から東海北陸地方の鳥瞰図・秋季

(横297mm×縦421mm)







鳥瞰図を自ら描く行為は、その都市の鳥瞰図あるいは立体的な絵地図を作成する作者自身のその時点における関心事や問題意識を研ぎ澄ましていくための方途として相当に有効な手段である。この作品発表の分野とは別に、研究論文の発表領域であるが、わたくしの近年における個人的なテーマは「都市の景観」、「歴史的な有形文化財」、「市民による足元・故郷の魅力再発見」「地域の人々による能動的なまちづくり活動」ほかを挙げることができる。そのような問題意識を筆者なりに保ちながら、ここ数年来、研究レポートを積み上げてきた。これらの内容は、いずれも現在から将来の生涯学習時代にあっては、今後とも決して小さくない課題に成長していくものと確信している。以上のような主題・研究テーマ・調査対象のフィールドなどを多少なりとも盛り込んだ形の日本全図が、ここに披瀝する4作品である。

まだ現時点では大きく注目されているとは言えない未評価の観光資源、修景保存をも含めて日常生活を改善するという視点からの景観整備、住民参加による地に足をつけた文字通り地道なそれでいて未発掘のまちづくり、文化や産業ほかの歴史をいかした特徴的な地域振興および情報発信の試みなど、日本全国には自分たちの手本となり得る、いや目標とすべき新しい動きが満ち満ちている。

“他山の石”などと表現しては失礼であるが、学び、そして真似るに充分値する活動事例は数知れない。しかしながら一方では、筆者ごとき一個人が知り得ることができる世界は、それらの大きな流れの中では極めて一部分にしか過ぎないことも重々承知しているべき点である。事実、情報の偏りがあり、その結果わたくしが描いた鳥瞰図中に盛り込まれる内容には甚だしい粗密があることも痛感している。

そのような現実や限界の中にあっても尚且つ、社会の動きの中のほんの一部を盛り込んだに過ぎない誠に稚拙な作品を遇えて、当生涯学習システム学部研究紀要に掲載する目的・意義は下記の3点にある。

- ① 上記のような今日的な状況を示す幾つかの最新の情報類を共有化する。
- ② それらを積み上げることにより生涯学習社会の大きな流れを把握する。
- ③ 遠い又は、そう遠くない将来において何らかの形で役立つ記録とする。

なお本稿では鳥瞰図4葉のうち、それぞれ2葉ずつの作品を各見開きの続き絵として表現したいという思いがあった。この目的を達成するため、第1ページには鳥瞰図ではなく図中に登場する実在の現存近代建築物を写真作品として掲載した。このような次第で自筆の鳥瞰図と、4×5インチフィルムで撮影した作品写真が混合する発表形態となったが御了承願いたい。

末尾になってしまったが、赤煉瓦ネットワーク会員ほか当鳥瞰図を完成する上で必要な各地の活動を御教示くださった全国の方々、ならびに作品-1の旧佐賀銀行唐津支店の撮影に際して御世話になった佐賀県唐津市教育委員会関係各位、唐津市在住の牧川洋二・彬子様御夫妻、久留米市の三島辰雄様ほかに、この紙面を借りて謝意を表するものである。多謝、感謝。